

東日本大震災 被災弱者調査報告

2011.10.11
サステイナブルデザイン教育研究センター
久保研究室

はじめに

2011年3月11日、未曾有の大震災により多くの人々が避難生活を開始
特に高齢者、障がい者のような災害弱者は、多くの困難を経験した



災害弱者の視点にたち、

1. 避難所・仮設住宅生活者の被災体験や困っていることを探る
2. 今後の大震災への対策を考える

調査概要

■ 調査期間： 2011年9月8日～13日

■ 調査対象： 仮設住宅に入居中の災害弱者

■ 調査場所：

- (i) 仙台市 あすと長町 仮設住宅
- (ii) 石巻市 障がい者仮設住宅
- (iii) 陸前高田市 高田高校仮設住宅
- (iv) 大船渡市 福祉仮設住宅
- (v) 大船渡市 大豆沢 仮設住宅

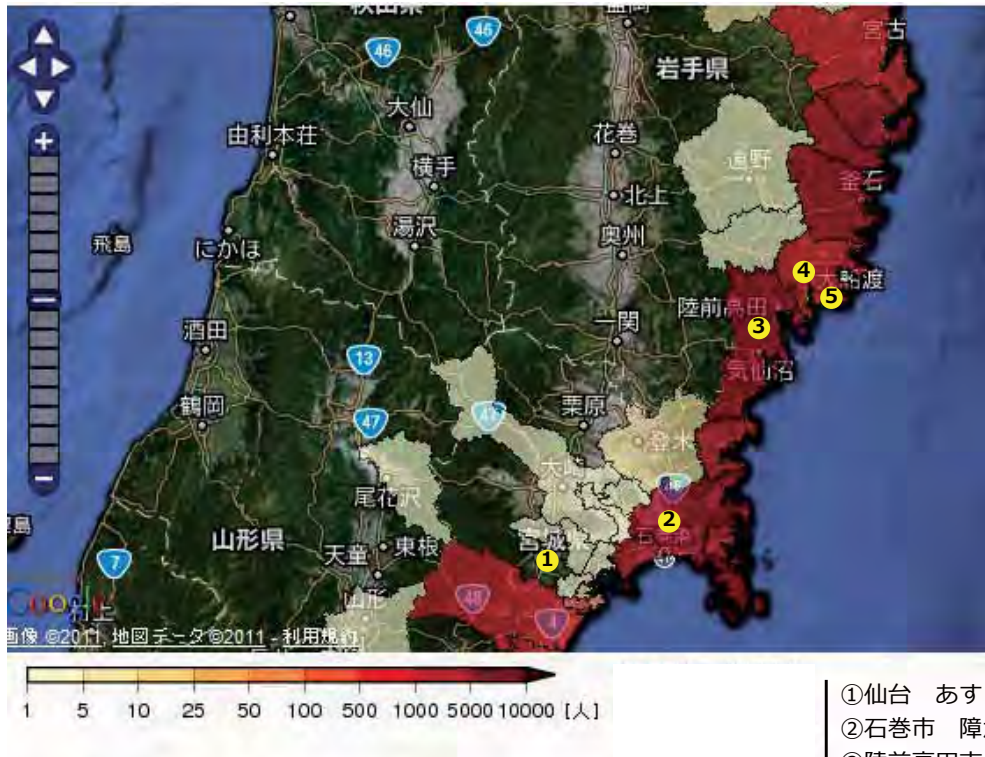
■ 調査方法： アンケートによるヒアリング調査

■ 調査内容： 震災直後・避難時・避難所・仮設住宅・今後についての問題点・QOLについて。



調査場所

■ 死者数・行方不明者数を表した図（防災科学研究所より）



現状 (9月8-13日)

■ 死者数・行方不明者数を表した図 (防災科学研究所より)







現状 (9月8-13日)

■ 死者数・行方不明者数を表した図 (防災科学研究所より)







現状 (9月8-13日)

■ 死者数・行方不明者数を表した図 (防災科学研究所より)

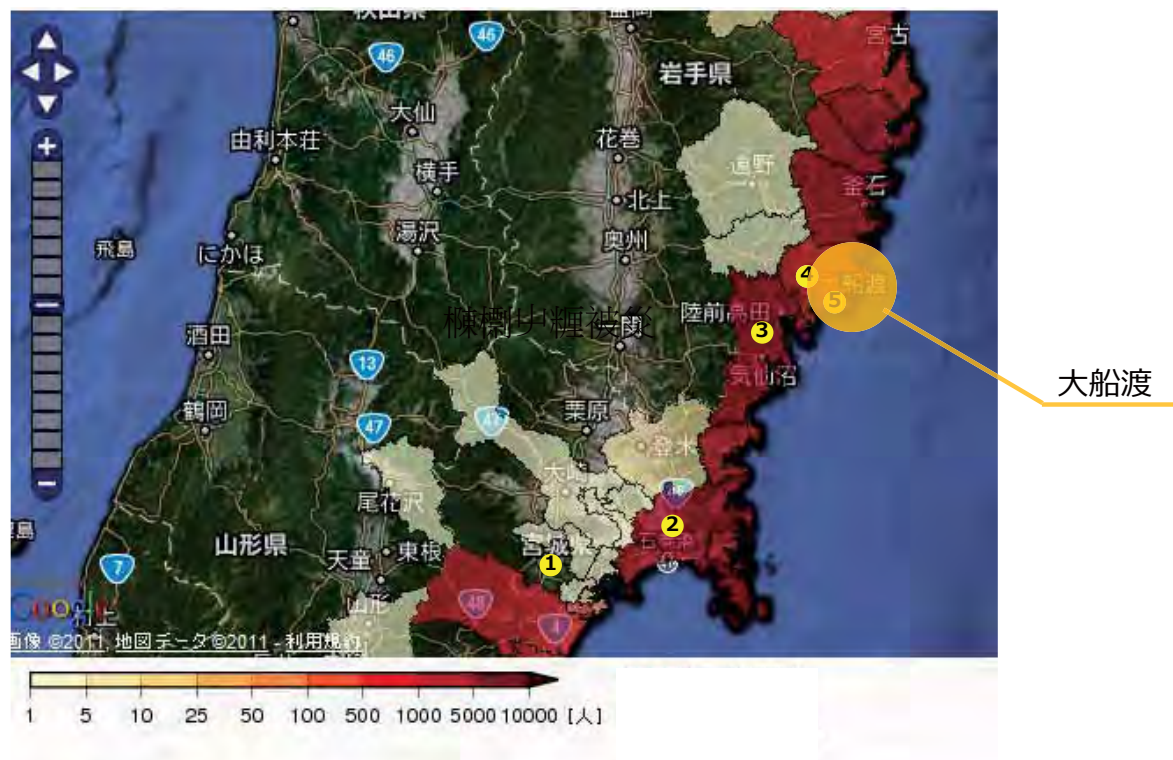






現状 (9月8-13日)

■ 死者数・行方不明者数を表した図 (防災科学研究所より)







被災者



石巻市障がい者専用仮設住宅

ご両親を亡くされた
障がい者の被災者



大船渡市大豆沢仮設住宅

子供を亡くされた
大豆沢の被災者

調査内容

①震災直後

地震が起きた時、とっさに何をしたか？
直後に出された大津波警報を聞いたか？

②避難時

避難にサポートは必要であったか？サポートしてくれる人がいたか？
誰かと一緒に避難したのか？
避難の際困ったことは何か？
普段から避難経路の把握はしていたのか？

③避難所生活

避難所に関する情報はどのように手に入れたのか？
避難所での生活はどうだったか？(食事・プライバシー・衛生状態の面で)
誰かと一緒に生活したのか？コミュニケーションはとっていたのか？
避難所で困ったこととは？

④仮設住宅

仮設住宅での生活はどうか？(食事・プライバシー・衛生状態の面で)
誰と一緒に生活しているのか？コミュニケーションはとっているのか？
仮設住宅で困ったこととは？

⑤今後

今後、以前住んでいた地域に住み続けたいと思うか？
元の地域で住むために必要な支援は何か？

調査結果

- ①あすと長町仮設住宅… 男性1名 女性8名
- ②石巻市障がい者仮設住宅… 男性4名 女性2名
- ③陸前高田市仮設住宅… 男性3名 女性5名
- ④大船渡市福祉仮設住宅… 男性2名
- ⑤大船渡市大豆沢仮設住宅… 男性2名 女性4名 計31名

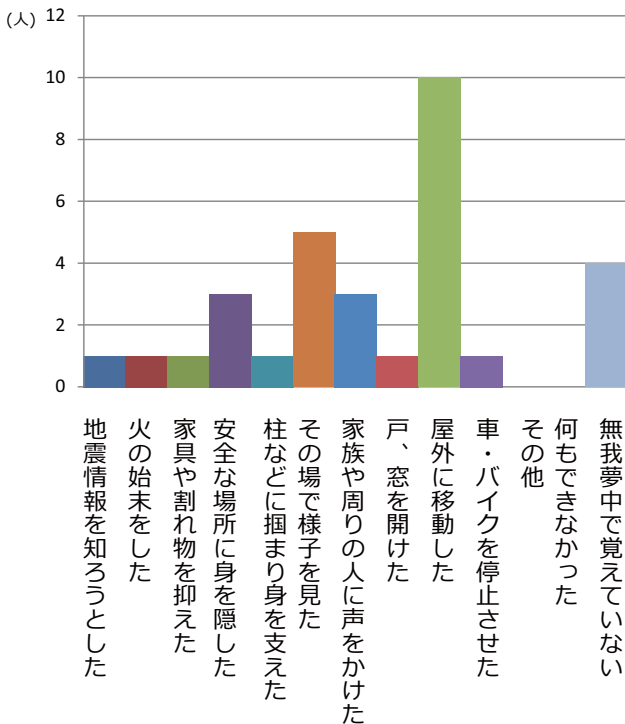
※高齢者が多数。又肢体不自由、知的障がい、小人症の方等を含む。



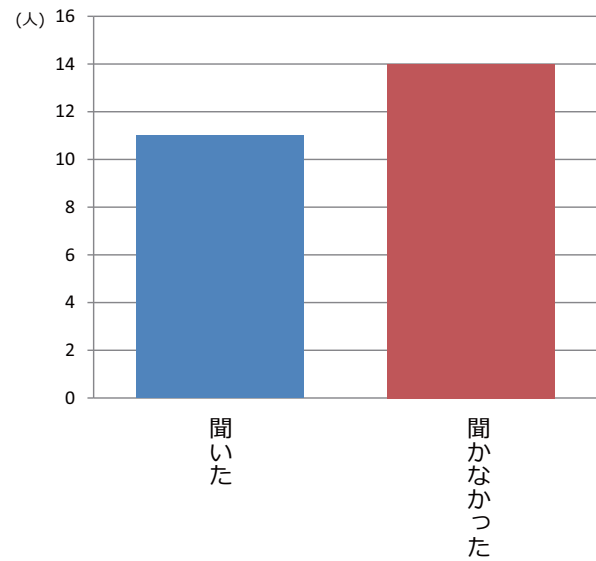
調査結果

①震災直後

地震が起きた時、とっさに何をしたか？



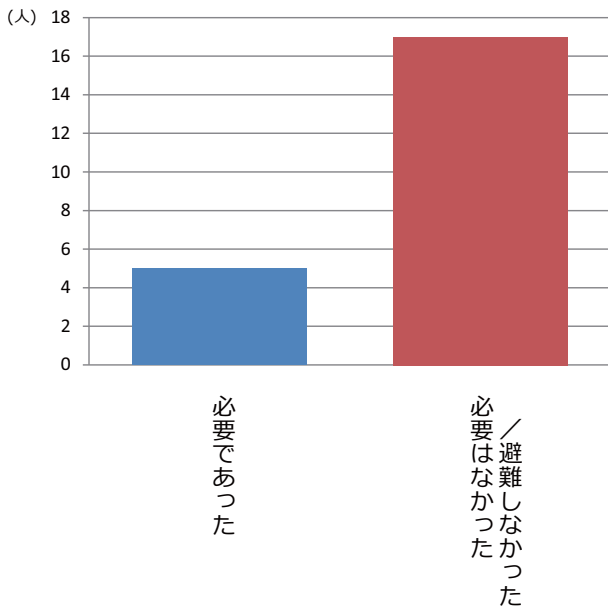
直後に出された大津波警報を聞いたか？



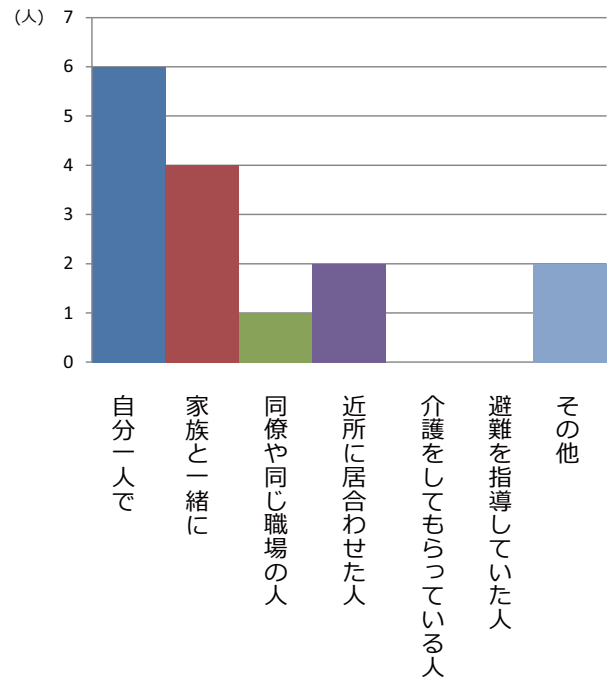
調査結果

②避難時

避難にサポートは必要であったか？



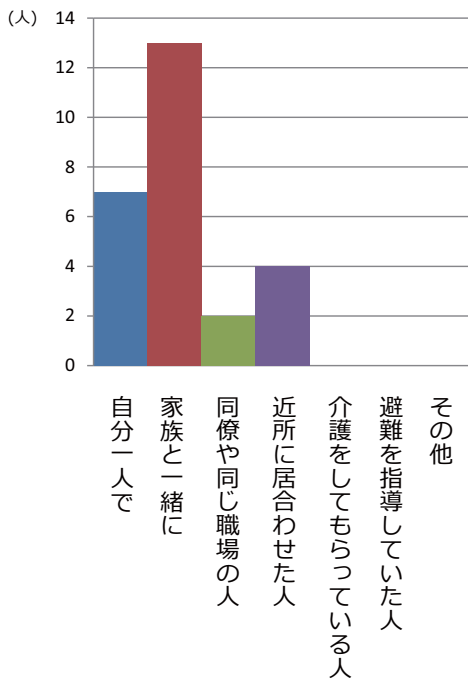
サポートしてくれる人がいたか？



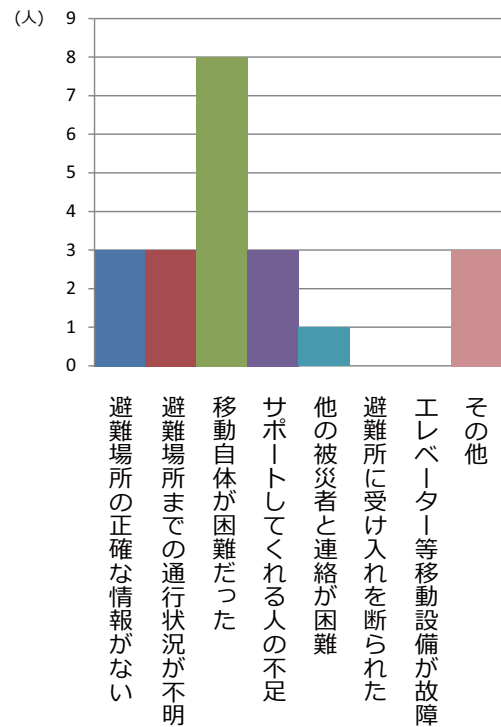
調査結果

②避難時

誰かと一緒に避難したのか？



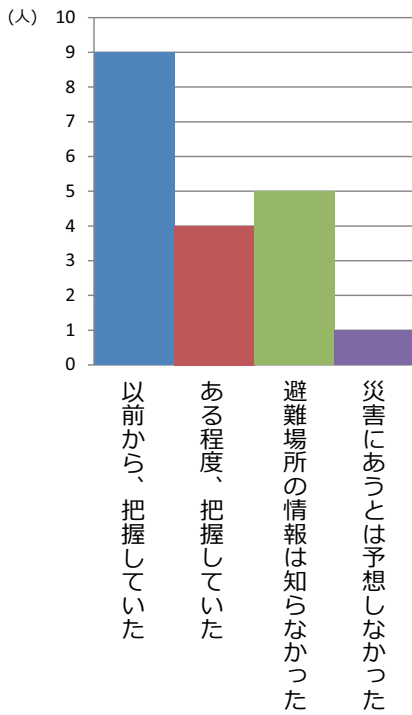
避難の際困ったことは何か？



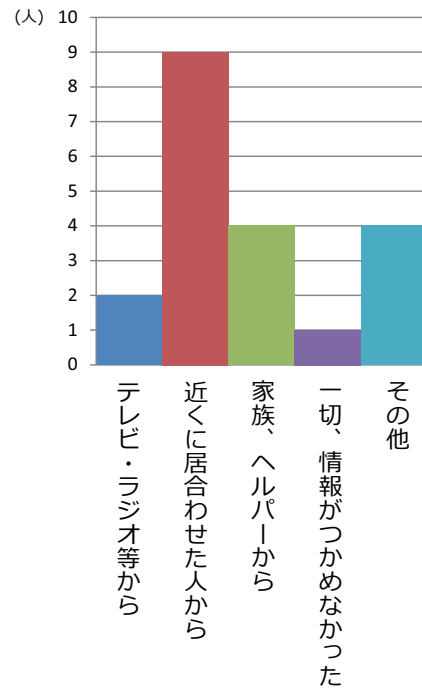
調査結果

②避難時

普段から避難経路は把握していたのか？



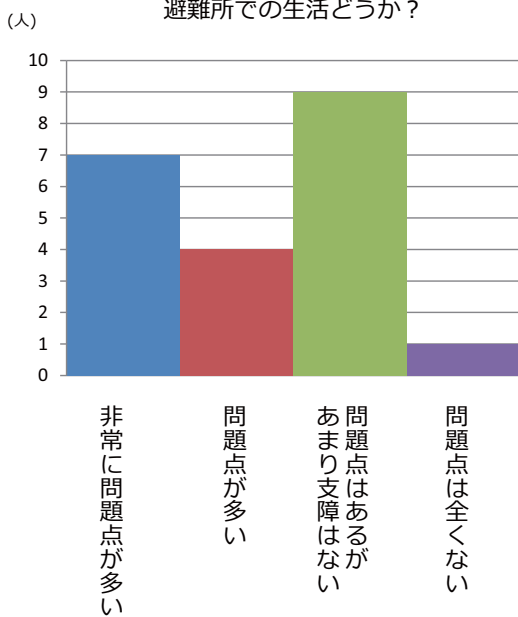
避難所に関する情報はどのように手に入れたのか？



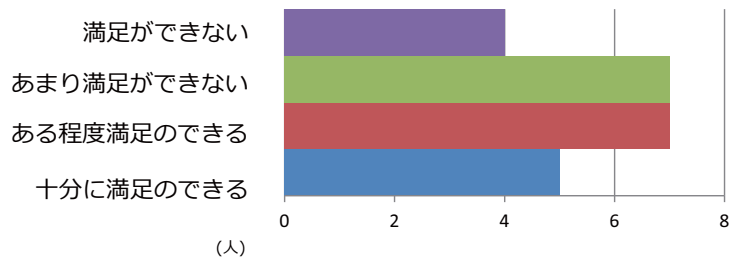
調査結果

③避難所生活

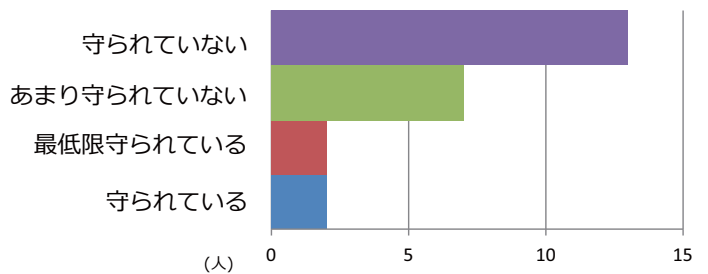
避難所での生活どうか？



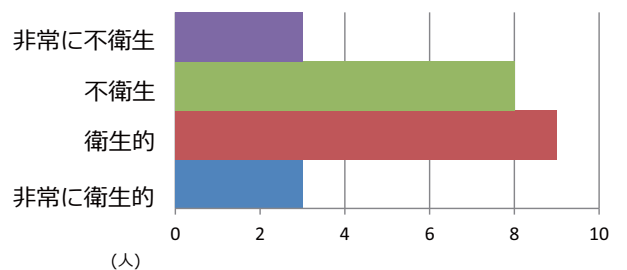
避難所の食事について



避難所でのプライバシー



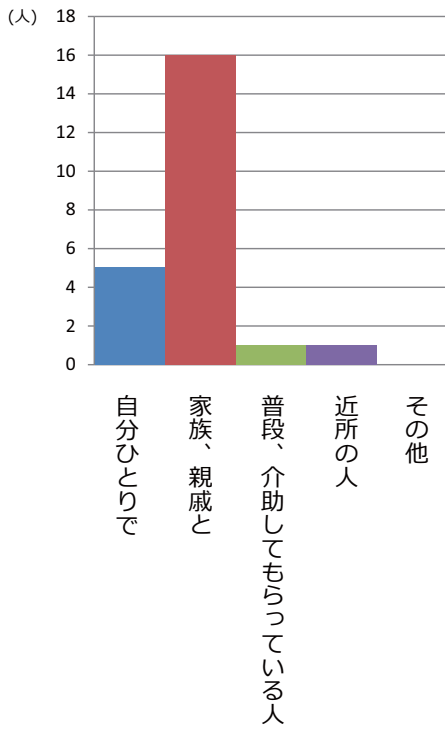
仮設住宅での衛生状況



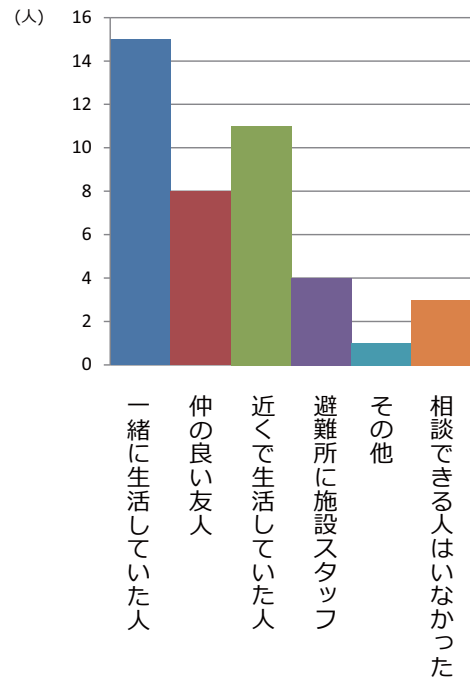
調査結果

③避難所生活

誰かと一緒に生活したのか？



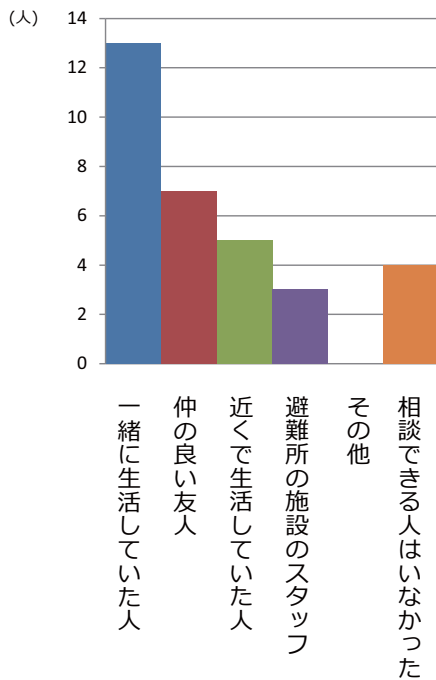
コミュニケーションはとっていたのか？



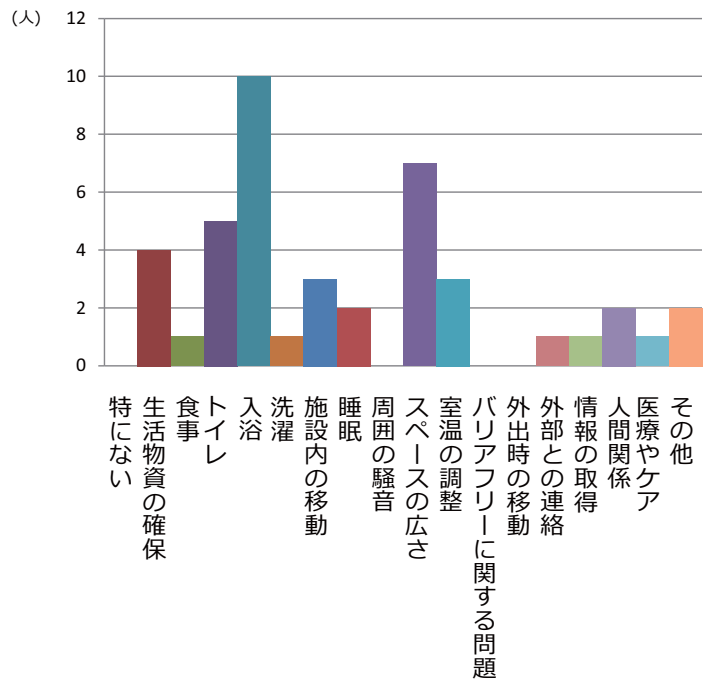
調査結果

③避難所生活

困ったときに相談できる人はいたか？

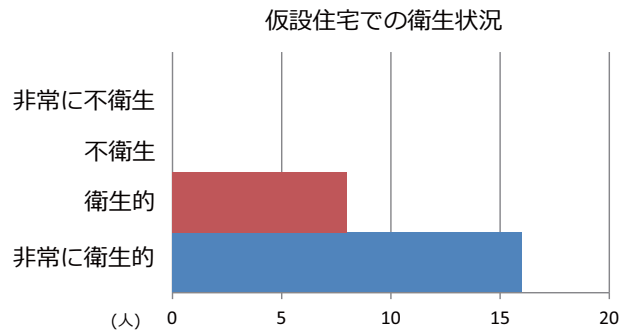
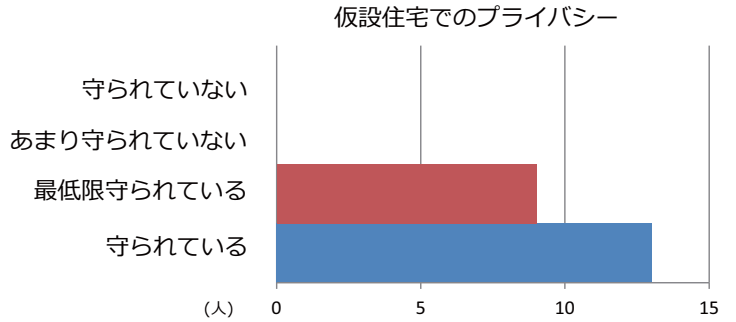
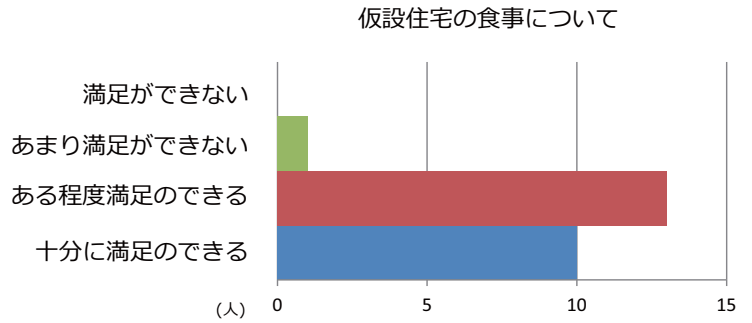
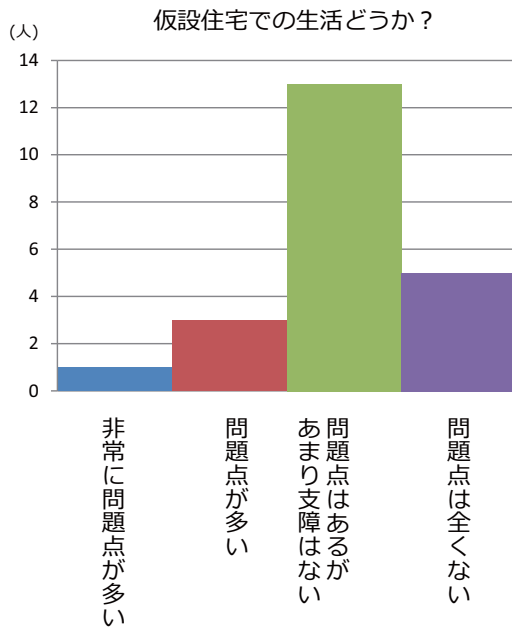


避難所で最も困ったこととは？



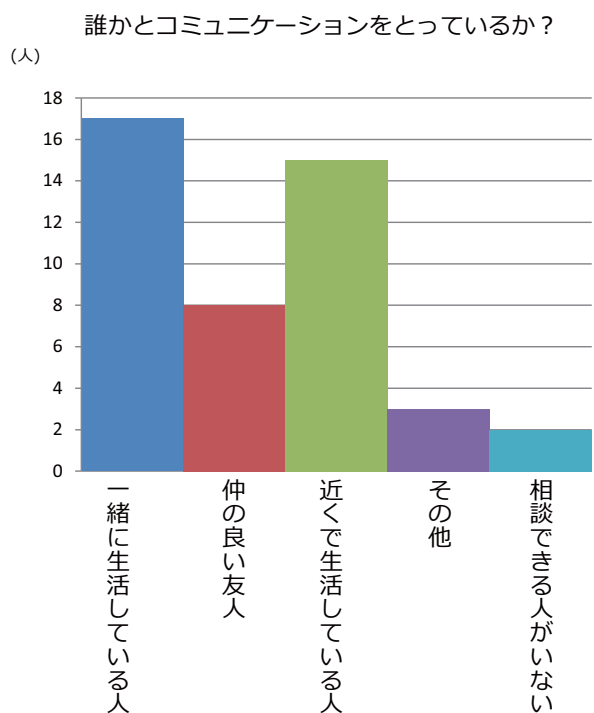
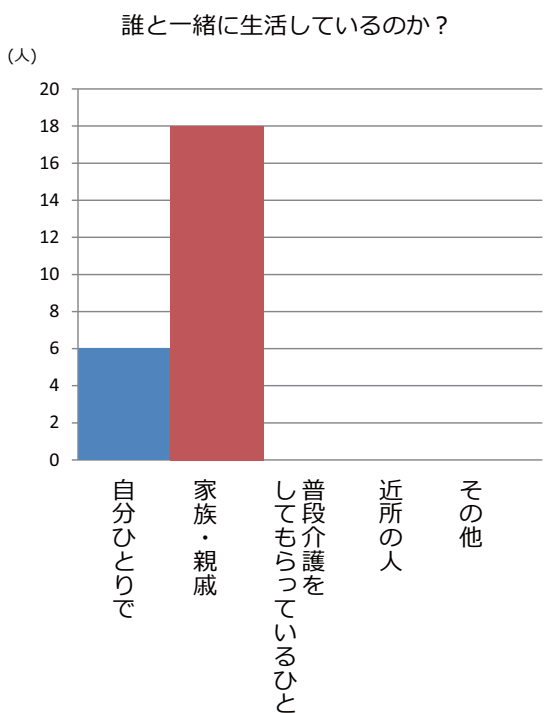
調査結果

④仮設住宅での生活



調査結果

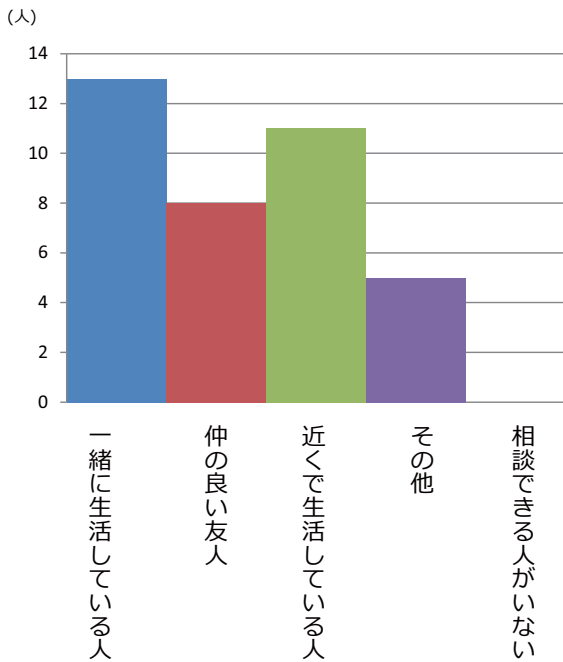
④仮設住宅での生活



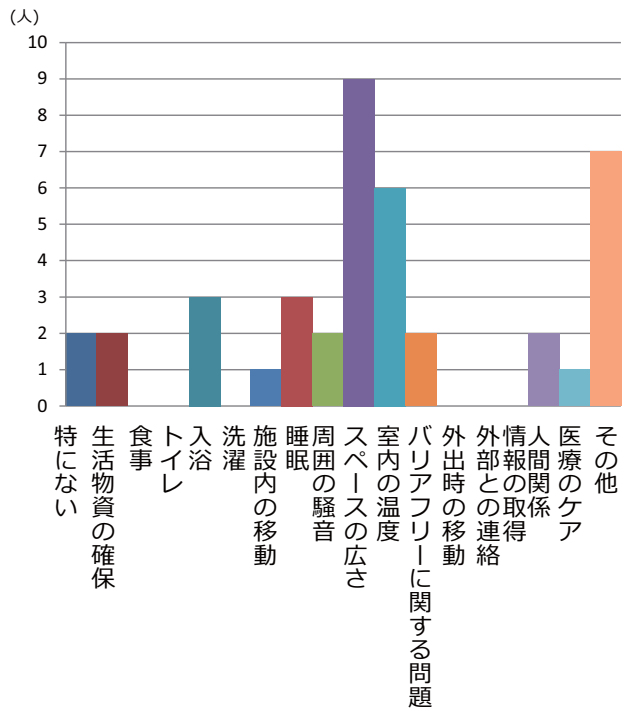
調査結果

④仮設住宅での生活

困った時、相談できる人はいるか？



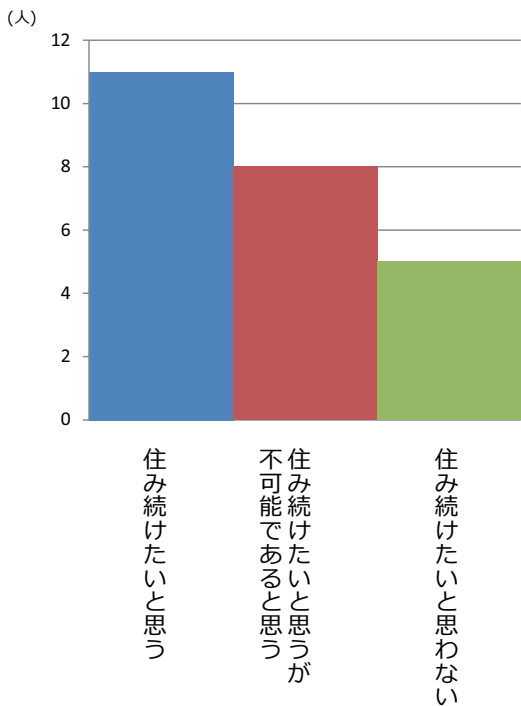
仮設で最も困ることは何か？



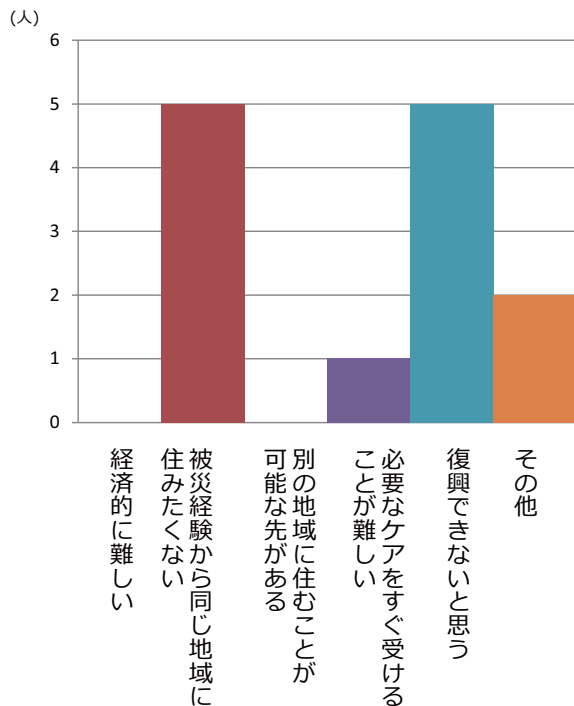
調査結果

⑤今後

以前住んでいた地域に住み続けたいと思うか？



その理由は何か？
(不可能又は住み続けたくないと答えた方)



考察

- ①震災直後
 - 実際、津波警報を聞いて危険を感じ、避難した人は少数。
- ②避難時
 - 多くの方は、震災前から指定避難所・避難可能な場所を把握。
 - 昔からの言い伝え通り、高台を目指し人が多い。
 - 津波への危機感の薄れから低い場所に建てられた新興住宅が壊滅。
- ③避難所生活
 - 食事：多くの避難所で被災から数日間物資が届かなかった。物資が届いてからは最低限の食事をとれた。
 - トイレ・入浴：水が無く衛生面を悪化させていた。障がい者・高齢者にとっては使いづらいも車いすの方は支援体制が無く利用できない場合が
 - プライバシーは守られておらず、車内や外で過ごした人もいる。
 - 田舎と都会ではギャップがある。顔見知りor not
 - 共通した問題がある中で、コミュニティの強さにより、感じ方が変わっている。
- ④仮設住宅
 - 避難所生活と比較して食事・プライバシー・衛生面の点で改善。
 - 障がい者向けとそうでないものとは設備面・サポート面で違いがある。障がい者向けの仮設住宅の方が良い環境が整備されていた。
 - 砂利道が多く、どんな人にとっても歩きづらい環境であった。
- ⑤今後
 - “可能ならば以前の地域に戻りたい”という人が多数。
 - しかし資金、雇用の面で困難が多い。
 - 地域により復興を熱望している人や生きるので精いっぱいな人に分かれているのが現状。

調査結果

■仮設住宅別 地域性

あすと長町（仙台市内）

- 集会所が併設され、一般社団法人のスタッフが入居者宅を訪問し、相談に乗るなどのサポートを行っている。
- 近くに大型スーパーがあり、交通の便も良い立地。
- スタッフが訪問してくるため、相談の機会はある一方、近隣住民とのコミュニケーションのあり方は二極化しており、積極的に行う人、相手への配慮からほとんど行わない人にと。
- 広範囲の地域から入居者が集まっている特性上、被災以前からの知人がいる人はコミュニケーションを十分に取れているが、顔見知りがないという人が多いようである。



調査結果

■ 仮設住宅別 地域性

石巻市 障がい者仮設住宅

- 障がい者とその家族のみ入居可能の仮設住宅。
- 24h体制のボランティアスタッフ、各部屋にナースコール設置。
- 全室玄関の前にはスロープが設置されているが、住宅の前の道は舗装されておらず、砂利道。
- スイッチの高さやキッチンの広さ、手すりの設置等、自由に変えられないものもあり、浴室もバリアフリーは無いため、入浴は近くの施設で済ませている人もいる。



調査結果

■ 仮設住宅別の地域性

陸前高田市 仮設住宅

- 被災面積が非常に広く、周辺は街灯や信号機が無く夜は真っ暗で、雨が降れば冠水し、道路が分からない状況。
- 入居者の多くが悲惨な経験をしているため、コミュニケーションをとることに難しさを感じている人や、思い出したくない過去と、周囲の人との距離を置いている人、知り合いがいないため、コミュニケーションをとれない人が多く、実際に表札を伏せている部屋も多かった。

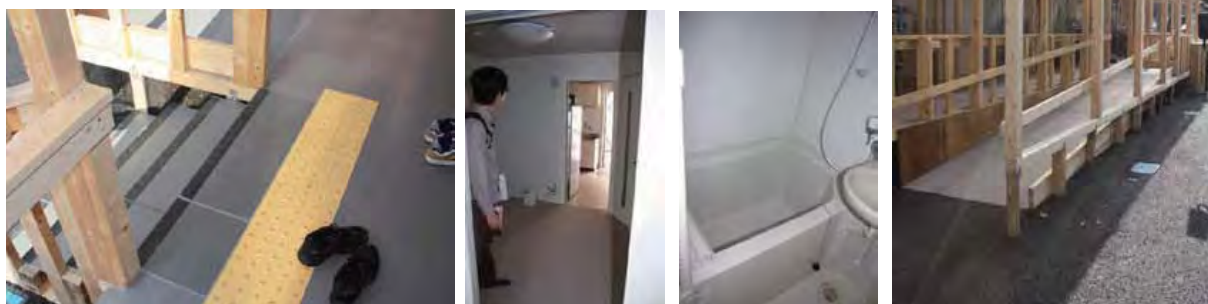


調査結果

■ 仮設住宅別 地域性

大船渡市 福祉仮設住宅

- 住宅街に位置し、入居者も数名で比較的規模が小さい。
- 近くのボランティアによる弁当の宅配サポートが受けられる。
- 障がい者向けなので、スロープや必要設備を取り付けられる
- 住宅の前も全てコンクリートで舗装されている。
- 体制が整っており、介護ベッドも導入されている。
- トイレに段差は無く、車いす生活の男性は扉を外して利用。
- ユニットバスのため改装出来ず、施設で入浴しているという。



調査結果

■ 仮設住宅別 地域性

大船渡市 大豆沢仮設住宅

- 入居している多くの人は、被災前からの知り合いであった。
→コミュニケーションは十分に取られている。
鐘の音が集合の合図など、ルールも形成されている。
- そばに広い畑があり、居住者がそこで野菜などを栽培していて、収穫した野菜は居住者で分け合っている。
→実際に畑仕事をする女性は、仕事中は震災のことから気がまぎれる上、収穫物を分け合う事でコミュニケーションに繋がり、喜びが生まれるという。
→居住者間に信頼関係が生まれており、協力して生活する体制が見られ、地域コミュニティの強さがうかがえた。



調査結果

■ 仮設住宅別 地域性

まとめ

- どの仮設住宅においても共通して、居住者のほとんどが、避難所生活と比較して、食事、衛生面、プライバシーの点で改善されたと感じていることが分かった。
- 障がい者向けの仮設住宅と、一般の仮設住宅では、設備面だけでなく、サポート体制・周囲の人との関係にも障がい者向けの仮設住宅はより良い環境が整っている。
- 一般的な仮設住宅においてよく見かけられた砂利道は、高齢者や車いす利用者にとっては非常に通りづらい。

考察

■ 提言：私たちにできること。

○ 仮設住宅の面

- ・ 住む人が選択の余地がある設計であること。
ex. 砂利道・ユニットバス・段差の多さ等
- ・ 障害者用住宅のバリアフリーは中途半端。
- ・ 閉鎖的・暗いイメージ。

- ・ 仮設住宅におけるUDの徹底
→ リスクを最低限に抑える。
- ・ 住む人に合わせて柔軟さがある。選択可能設計
- ・ コミュニティスペースの重要さ
→ 明るさ、困りごとの解消



考察

■ 提言：私たちにできること。

○ 震災と避難の備えを拡充

- ・ 災害弱者の避難時、困難が多し
- ・ 震災直後の物資の不足・インフラの断絶

- ・ 防災マップ・避難計画の見直し
弱者も含めた避難のありかたの提言
- ・ 避難所の設の充実拡充
ライフライン停止でも避難活動ができる仕組

